

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

丹波市立新井小学校

1. 調査について

- 【目的】 ①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育成果と課題を検証しその改善を図る
②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる
③上記の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- 【実施日】 令和5年4月17日（火）
- 【対象】 新井小学校6年生
- 【内容】 国語、算数
児童質問紙（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面など）
- 【その他】 あくまでも一つの調査の結果から推し量れる学力の一部であり、記述によるテストでは測れない能力や態度、個性を子どもたちは有している

2. 学習状況調査結果より

国語

- 【成果】
- ・正答率の平均は、全国平均と同程度の力
 - ・目的や意図に応じて話の中心を捉え、自分の考えを持つ力
 - ・文章から中心となる内容を要約する力
- 【課題】
- ・自分の考えが伝わるように工夫して書く力
 - ・資料や文章を読み取り、自分の考えを要約する力
 - ・複数の情報を活用する力
- 【改善】
- ・学習後に「振り返り」を書く時間を確保する
 - ・低学年の段階から、意図的に自分の考えを書いたり伝えたりする

算数

- 【成果】
- ・正確に四則計算する力
 - ・伴って変わる二つの数量について変化を読み取り、数を求める力
- 【課題】
- ・図形の意味や性質を理解する力
 - ・理由（根拠）を説明する力
 - ・複数の情報から必要な情報を選択し、問題を解決する力
- 【改善】
- ・算数言語を用いて理由を説明（証明）する授業を展開する
 - ・図形は、基本的な定義・性質を学びなおす機会をとる
 - ・スキル学習やタブレットドリルの活用をする



今後の取組

- ① 全校週末プリントを実施
 - ・言語事項や読解・資料の活用等の問題を解く機会を増やす
- ② 気づきを書き出す「ふきだし」学習の導入と学習後の「ふりかえり」の徹底
 - ・自分の考えや変容を記録する。
 - ・自分の考えをまとめ、表出する時間を確保する

児童質問紙



【成果】

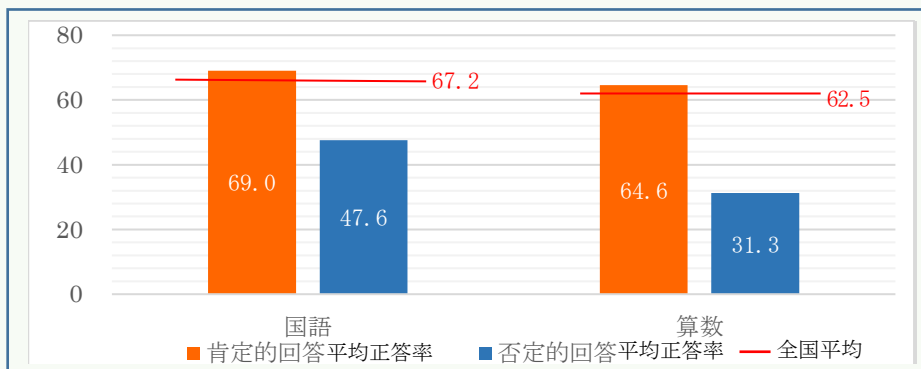
- ① 自分で計画を立て家庭学習している割合は、全国平均より高い
- ② 地域の行事に積極的に参加している児童が多い
- ③ 国語や算数の学習が大切で、将来役に立つと答えた割合が90%を超えている
- ④ 友だち関係におおむね満足している割合は、全国平均より高い

【課題】

- ① 多くの質問において「当てはまる」は非常に少なく、「どちらかといえばあてはまる」と回答する割合が高い消極的な傾向がみられる
- ② 「自分に良いところがあると思いますか」は、肯定的回答が全国平均より少ない
- ③ 「将来の夢や希望を持っていますか」は、肯定的回答が過半数を下回っている

【分析】

- ① 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をした児童は、全国よりも正答率が高い



友だちを尊重しながら主体的に意見を出し合う学習は、思考力を高めたり興味関心を広げたりするなど学力を支える力を育てる。授業をはじめ、教育活動全般においてコミュニケーションをとりながら協働的に学ぶことができるよう、指導の工夫に取り組む必要がある。

今後の取組

① 自尊感情を高める

- ・自分の良さや個性に気づく（自己理解の時間を確保、認め合う学級づくり）
- ・自分の意見が持てたり、言えたりする（自己決定の尊重、縦割り班活動の充実）

② 主体的に話したり考えたりする

- ・意見の違いを認め合い、考えを広げる活動を行う（授業、学級・委員会・係活動）
- ・自分で決めた目的、目標に向かって取り組む（体験活動の充実）

おわりに

子どもたちは「にこ・はき・どん」を合言葉に元気に生活しています。学校アンケートでは9割の子どもが集中して授業に参加していると答えています。学力の向上には、読み書き計算だけでなく、探求心や学びあう気持ち等の学習意欲が大切です。それと同様に、規則正しい生活習慣や規範意識、自己肯定感を養うことが重要だと考えます。今後も引き続き、一人ひとりの居場所づくりや、一人ひとりが活躍する場を保障するなど、本校で大切にしている自己肯定感を育てる取組をすすめるながら、学校・家庭・地域が連携し、主体的に学ぶ児童の育成をすすめてまいります。